子育て環境の質的向上を目指した子育て環境創造プロジェクト

Improvement in the quality of child-rearing environment

○松田志穂（子育て支援グループ TwosTep），高山尚文（シンク情報システム），渡辺喜道（山梨大学），新藤久和（山梨大学）

Shiho MATSUDA，TwosTep，1818-1 Nakashimojo，Kai-shi，Yamanashi
Naofumi TAKAYAMA，SYNC Information System，2-6-6 Iida，Kofu-shi，Yamanashi
Yoshimichi WATANABE，University of Yamanashi，4-3-11 Takeda，Kofu-shi，Yamanashi
Hisakazu SHINDO，University of Yamanashi，4-3-11 Takeda，Kofu-shi，Yamanashi

Key Words : parenting support, community, co-working, welfare network, co-existing society

1．緒　言

子育て環境を向上させるためには，行政－民間－学校－地域－家庭間の継続的支援が必要とされている．そこで，それぞれの立場の「問題と課題」を地域で共有することを目的として，情報ネットワークを利用した試験的サイトを立ち上げた．専門的かつ良質な知識を一般家庭の父親や母親がスムーズに受け入れることができるようなサイト設計，さらに活動地域が離れていても意見交換が可能なサイト構築を目標として開発した．

2．背　景

子育て支援が言われて久しいが，現実には，帰宅時間の調整が難しい父親の立場や企業の抱える諸事情から，子育て支援以前の課題としてライフワークバランスの見直しが掲げられている[(1)]．また，不在がちな父親の存在をまかないきれない母親への負担を支援するための家庭教育支援策も増えている[(2)]．

現在の家庭が抱える問題を，少しでもよい方向へ導くことを目標として，地域，学校，市町村，支援グループ等，各々の立場で様々な取組が行われているが，思ったような成果をあげられないこともあり，問題の深刻さを痛感せざるを得ない．社会的な背景から派生している深刻な問題を解決するためには，長い時間と多くの人の協力とが不可欠である．

3．子育て支援から家庭教育支援へ

ここでは，個々の行政やグループが実施する子育て支援およびライフワークバランスや家庭教育支援等も視野にいれた子育て支援にまつわる支援全般を，子育て環境の支援と定義する．また，問題をわかりやすくするために，DV や虐待の問題のように緊急な措置が必要とされる活動を含まずに，根本的な見直しが必要とされている部分を子育て環境の支援と呼ぶこととする．

本研究では，個々の子育て環境の支援が，より効果的なものとなるように支援するプロジェクトを「子育て環境創造プロジェクト」と呼称し，情報ネットワークの構築に次いで人的ネットワークの構築を目指す．時間や場所を問わずに情報を共有することが可能な情報ネットワークの特性を利用して，立場や住居が異なる人々を結びつけ，実際に顔を合わせての学習会や意見交換会を設定し，人的ネットワークの基盤づくりへつなげることを最終目標とする．

4．試験的サイトの構築

情報ネットワークとして，図１に示す，行政－民間－学校－地域－家庭間を結ぶための試験的サイトを立ち上げた．サイトのトップページは，各ページのおすすめコンテンツへのインデックスページとなっている．

図1．試験的サイトのトップページ

各ページの内容は，①子育て環境の支援活動イベント全般を検索できる「おでかけ情報ページ」，②子育て環境の支援活動を随時紹介している「子育て情報ページ」，③設定テーマ毎に意見交換ができる「コミュニティページ」，④子育て環境の支援グループの情報を見ることができる「会員ページ」によって，構成されている．

「おでかけ情報ページ」の中にある行政と民間の子育て関連のイベントを総括して見ることが可能なシステムは山梨県内初の試みである．現在，イベント情報取得の方法は，学校毎に配布される A4 サイズのチラシ

が主流であるが，必要な時に必要な情報を検索できる電子情報を活用することで，チラシ紙を削減できるメリットも考慮している．また，母親だけではなく，父親も会社の休み時間等を利用しておでかけ情報を検索することを想定している．

「子育て情報ページ」は，山梨県内の子育て環境の支援活動を紹介し，関係者だけではなく，一般の家庭へも広く活動を知ってもらい，子育て環境への関心を高めてもらうために，身近な活動を見やすい映像で紹介している．ダウンロード時間の負担が少ないストリーミング形式で，ひとつの紹介につき約 5 分程度の活動紹介を見ることができる．

「コミュニティページ」では，あらかじめ設定されたコミュニティテーマをきっかけに，日頃の個人の声が共有できるような意見交換の場を設定している．発言は，創造会員として会員登録をした人だけが可能となる．責任ある発言をしてもらうために，会員登録を必須としている．発言の期限終了後，コンテンツにまとめて子育て情報ページで紹介していく仕組みとなっている．今後，このページで話題性の高いテーマが発見できれば，それに対して，実際に意見交換する場を設定することを計画している．

「会員ページ」では，協働会員として登録している子育て環境の支援グループを紹介している．場所や立場の違う個々の活動を，このページで知り，実際の連携・協力活動へと促進するためのデータベースとなることを目的としている．

５．サイトの設計方針

サイトの構築で特に配慮したことは，以下の 4 点である．

〔1〕活動主体の棲み分けや連携が可能な仕組み

活動場所や時間が異なる活動主体を紹介するページを設けて，活動分野別に検索できるようにした．紹介ページには，グループ情報と活動紹介が掲載されており，必要に応じて連絡を取り合うことが可能となっている．

〔2〕子育て環境に関心のある人を増幅していく仕組み

おでかけ情報ページの利用者が，トップページや子育てページから，気軽に身近な地域活動を知ることができる．身近な活動を知ることにより，子育て環境への問題意識の高まり，支援活動への関心の高まり等が期待できる．

〔3〕問題と課題が参加者の声から見えてくる仕組み

コミュニティページでは，一般的な子育ての悩みから，父親同士の会話，環境や立場の違う人との意見交換の場が用意されている．おでかけ情報を見るためにサイトを訪問していた利用者が，子育て環境の支援に参加する側へ転換するきっかけとなることを期待している．さらに，行政や支援側がこのコミュニティページから，どのような支援が望まれているのかを予測することが可能となるのではないかと考えている．さらなる展開として，サイト内の意見交換から実際に顔を合わせての意見交換会設定までの流れを，参加者と運営側が共有することができると，現実的な人的ネットワークの基盤ができるのではないかと期待している．

〔4〕専門的で良質な知識が取得できる仕組み

コミュニティページは，その場だけの意見交換に留まることなく，反響が高かったものや，話題性の高いものをとりあげて，専門家の参考意見を盛り込んだひとつのコンテンツとして子育て情報へ随時アップしていく予定である．さらに，関心の高い問題については，実際に顔を合わせる形式での学習会や意見交換会を設定することを予定している．

〔5〕継続的運用を目指した仕組み

非営利目的のサイトであるために，運用費を十分に確保することは難しいと考えている．そのために，運用費確保の検討と並行して，限られた人的リソースを最大限活かすことができるように，電子情報入力の方法を工夫している．会員ページからは，支援グループの紹介やおでかけ情報登録を会員自らが行える機能が備えられている．従って，おでかけ情報ページ，コミュニティページおよび会員ページは，会員が直接入力した情報を自動的に表示する仕組みとなっており，実際に運営側が直接メンテナンスするページは，子育て情報ページとトップページになっている．

６．実用化に向けての課題

試験的サイトから実用的なサイトへとなるためには，会員登録の数を増やすことが必須となる．会員登録を促進するために，定期的なサイト更新，コンテンツの充実に力をいれていく予定である．さらには，行政と民間の協働会員も増やしていけるよう，子育て支援グループの協力を得て各市町村へもアピールしていくことを考えている．

参考文献

(1) http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/10/s1013-3.html，男性が育児参加できるワーク・ライフ・バランス推進協議会提言について，厚生労働省．

(2) http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/03040901.htm，家庭の教育力の向上，IT を活用した次世代型家庭教育支援手法開発事業，文部科学省．